

競技注意事項

1. 本大会は平成 29 年度日本陸上競技連盟競技規則ならびに本大会申し合わせ事項により実施する。
2. 知多運動公園陸上競技場（1 日目）でのウォームアップについて
 - ① ウォームアップは、競技場の付近か使っていないときのバックストレートで各自行うこと。ただし、ハンマー投を行っているときはバックストレートでのアップに制限を設けるので注意し、審判の指示には従うこと。運営に支障が出ないよう、そしてけが・事故等の無いように細心の注意を払うこと。万が一、負傷したとしても主催者は一切責任を負わない。
 - ② 9 時 00 分まで、本競技場のトラックを使ってウォーミングアップをすることができる。ただし、準備に支障のないようにすること。
3. 瑞穂スタジアム（2 日目）でのウォームアップについて
 - ① 本競技場は、開門時から 8 時 45 分まではトラックを全面使用できる。ただし、準備に支障のないようにすること。また、場内放送や競技役員の指示があった場合は、それに従うこと。
 - ② 北競技場は、開門時からトラックを全面使用できる。ただし、芝生は立ち入り禁止とする。また、用器具はスタートブロック・ハードル・砂場のみ貸し出しをする。その他、競技場の利用及び用器具の貸し出しについては、ウォームアップ場係の指示に従うこと。
 - ③ 投擲練習はできないので競技開始前に各ピットで競技役員の指示により行うこと。
 - ④ レクリエーション広場は使用できないので、勝手に立ち入って練習しないこと。
4. 競技場使用の注意
 - ① 開門時間は、両日とも 8 時 00 分とする。それ以前には立ち入らない。
 - ② バックスタンド以外での横断幕等の掲出を禁止する。掲出する場合は、必ずひもを使用し、ガムテープ等の使用を禁止する。
 - ③ 選手の本部前の通行は禁止する。
 - ④ トラック・フィールド内に立ち入ったの応援は禁止する。
 - ⑤ 競技場内でテープ、マーカー等を使用した際は、必ず各自ではがすこと。
 - ⑥ スパイクで競技場内を通行するのは厳禁とする。
 - ⑦ 貴重品の管理は各大学および各個人が責任を持って行うこと。競技場内において盗難等が発生しても主催者は責任を負わない。
 - ⑧ 競技場は全天候舗装であるため、スパイクのピンは 9mm 以下の全天候舗装用を使用すること。（但し、走高跳・やり投は 12mm 以下まで使用可）
 - ⑨ 清掃は各大学で徹底して確実に行うこと。ごみは各大学が責任を持って持ち帰ること。
 - ⑩ 近隣住民から苦情が来るので楽器等を使った応援は厳禁とする。
 - ⑪ 許可を得ていないカメラやビデオなどでの撮影行為は禁止とする。撮影を希望する場合は受付へ申し出を行い、撮影許可証を着用し撮影すること。
5. 招集について
 - ① 招集所は、1 日目は第 1 倉庫（1500m スタート付近）西側に、2 日目はメインスタンド北側の選手控えホール（100m スタート付近）に設ける。
 - ② 競技日程を確認し、遅れることなく招集を受けること。
 - ③ 招集にて、役員の点呼（ナンバーカード、腰ナンバーカード、スパイクのピンの確認）を受けること。
 - ④ 招集完了時刻に遅れた選手は棄権とみなす。
 - ⑤ 複数種目に参加する競技者で招集時間が重なる場合は、複数種目同時出場届（招集所に用意）に記入して競技前までに招集所に提出すること。その場合、代理人による招集が認められる。代理人は競技者が競技中

である旨を必ず競技者係に申し出ること。

- ⑥ リレーのオーダー用紙の提出は招集完了時刻 60 分前とする。なお、これは招集ではないので招集時間になったら、召集所にて 4 人そろって招集を受けること。なお、オーダー用紙は代表者会議にて配布する。
- ⑦ オーダー用紙提出後けが等により出場が難しい選手が現れた場合、医務員の診断が確認できた場合に限り選手変更を可能とする。

6. 選手変更・棄権について

- ① 対校の部における補欠との選手変更・棄権については、代表者会議において決定する。オープンの部における棄権については、7 月 28 日までに判明している場合は、7 月 28 日 12 時までメールにて受け付ける。
- ② 当日の選手変更は認めない。
- ③ やむを得ず当日棄権する場合は、棄権届けを本部にて受け取り、招集開始前までに必ず本部と競技者係に提出すること。

7. 競技の抽選、番組編成について

- ① 同タイムの場合は、着差が 1000 分の 1 秒までであればそれにより決定する。着差もなく同着の場合は抽選により決勝進出者を決定する。
- ② 抽選は番組編成員が該当者をアナウンスにより招集して行う。アナウンス後 10 分以内に記録室へ集合する。連絡なく集合しない場合は棄権したものと判断する。
- ③ 進出決定の発表は、アナウンスおよび記録掲示板に掲示する。

8. ナンバーカードについて

- ① ナンバーカードは各大学で用意したものを使用する。また、跳躍種目に出場する競技者は、胸、背のいずれかにつければよい。ただし 5000mW の対校選手については、専用のゼッケンを着用する。このゼッケンは主催者が用意する。
- ② トラック競技はレーンナンバーによる腰ナンバーカードを使用する。ランニングパンツの右横やや後方に明確に数字が読めるようにつける。腰ナンバーカードは召集所にて貸し出すので、レース終了後フィニッシュ地点にて係員に返却する。リレー種目ではアンカーのみつけること。

9. 用器具について

- ① 競技用器具は競技場備え付けのものを使用すること。ただし、棒高跳用ポールとやり投用のやりは各自のものを使用できる。
- ② やり投において、個人所有のやりを使用する場合は、検定を受けなければならない。検定は競技開始 1 時間前に 1 日目は第 4 倉庫前、2 日目は用器具庫にて行う。

10. トラック種目について

- ① 400m までのレーン使用の競技では、フィニッシュ後も他の競技者の安全のために、自分に割り振られたレーンに沿って減速し止まる。
- ② 4×400mR の第 3、第 4 走者は審判員の指示に従い、前走者が 200m スタート地点を通過した順序で、内側より並び待機する。その後、この順序を変えてはならない。

11. 中長距離種目について

- ① 本年度においては、女子 800m は各レーンに 2 人ずつはじめて最初の 120m をセパレートで行う方式で実施する。来年度以降については女子主将会議で決定する。
- ② オープンの部 5000m は参加人数によりグループスタートとする場合がある。
- ③ 対校の部、オープンの部ともに長距離種目（5000m、5000mW）では天候によって給水をバックストレートに設置する。
- ④ 以下の種目については、スタート後一定時間を経過して残り 1 周に達していない場合、または競技日程

に支障が出ると審判長が判断した場合、審判長の指示により競技を中止させることがある。男子 5000m・OP 男子 5000m…スタート後 20 分、OP 女子 5000m…スタート後 25 分、男子 5000mW・OP 男女 5000mW…スタート後 30 分

※ただし、対校の部については 6 位入賞者がゴールするまでは、制限時間を超過しても競技を続行することがある。

※OP 男子 5000m の 1 組目は OP 女子 5000m と同時スタートであるため、OP 男子 5000m で制限時間を超過した選手がいても、OP 女子 5000m の選手が競技中の場合は、競技を続行する。

12. 跳躍種目について

- ① バーの上げ方は下記の通りとする。ただし、代表者会議で変更する場合がある。

種目	練習	バーの上げ方
男子走高跳	1m70	1m70-(5cmきざみ)-1m95-(3cmきざみ)
男子棒高跳(対校)	3m00、3m60、4m20	3m40-(20cmきざみ)-4m20-(10cmきざみ)
男子棒高跳(OP)		3m00-(20cmきざみ)
女子走高跳	1m30	1m30-(5cmきざみ)-1m55-(3cmきざみ)

- ② 棒高跳の支柱の移動については自分が希望する支柱の位置を競技開始前に担当審判員に申し出ること。
 ③ 三段跳は 12m の踏切板を使用する。
 ④ 走高跳と棒高跳を除き、対校の部では 3 回試技を行い、上位 8 名がさらに 3 回試技を行う。オープンの部の試技数は 3 回までとする。

13. 投擲種目について

対校の部では 3 回試技を行い、上位 8 名がさらに 3 回試技を行う。オープンの部の試技数は 3 回までとする。

14. 表彰及び対校得点について

- ① 対校の部の各種目 3 位までの入賞者には賞状を授与する。
 ② 表彰を競技場正面スタンド前で行う。該当者はアナウンスや表彰係の指示に従うこと。該当者が競技等のため表彰に出られない場合は必ず代理を立てること。
 ③ 得点は男子 6 点制（1 位 6 点・2 位 5 点・……・5 位 2 点・6 位 1 点）、女子 4 点制（1 位 4 点・2 位 3 点・……・4 位 1 点）とする。
 ④ 対校得点に関して、同点の場合は優勝種目の数で、それでも決定できない場合は 2 位入賞者数で、以下同様に 3 位入賞者数、…で順位を決定する。

15. 開閉会式について

- ① 開会式は 7 月 30 日の午前 9 時より瑞穂スタジアム内で行うので、トラック上ホームストレート側に整列すること。ただし、フィールド内には入らないこと。
 ② 閉会式は競技終了後直ちに行うので、開会式と同様に整列すること。

16. その他

- ① 競技者の発病、負傷については応急処置のみをするものとする。
 ② 医務室は正面入り口を入れて、知多の時は左側、瑞穂の時は右側に設置する。
 ③ 競技者はビデオ、音楽機器、ラジオ、トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技場内へ持ち込んではならない。
 ④ 競技中の選手に対する助力は競技規則第 144 条 2 項に準ずる。またフィールド競技に関しては該当審判員が許可を与えた上でコーチにアドバイスを聞きに行くことができる。審判員の指示に従わない場合は選手・コーチに警告を与え、さらに続いた場合は主催者側で協議し対処する。(競技規則第 144 条 4 項参照)